

与える恐怖は受ける恐怖

By Chris Hedges

February 9, 2015 (Information Clearing House)

我々は空からのミサイル攻撃で、家の中で抱き合っている家族を焼き殺す。彼らは檻の中に入らずくまるパイロットを焼き殺す。我々は秘密の場所で人質を拷問し、喉にぼろきれを押し込んで彼らを窒息死させる。彼らはむき苦しい小屋で人質を拷問し、首を刎ねる。我々はシーア派の虐殺隊を組織してスンニ派を殺させる。彼らはスンニ派の虐殺隊を組織してシーア派を殺させる。我々は『アメリカン・スナイパー』のような高予算の映画を作って、戦争犯罪を美化し、彼らは鼓舞するためのビデオを作って、聖戦の捻じ曲がった解釈を美化する。
http://www.slate.com/articles/news_and_politics/jurisprudence/2010/01/too_terrible_to_be_true.html

我々の非難する野蛮行為は、我々の行う野蛮行為だ。我々をイラク・シリア・イスラム国 (ISIS) から分ける境界線は、方法の違いであって、道徳的なものではない。我々は戦っている相手と同じものだ。

「暴力からは暴力しか生まれない」と Primo Levi は書いた、「振り子運動に従って、時が経つにつれて、弱まるのでなく、さらに凶暴になる。」

<http://www.kirjasto.sci.fi/primo.htm>

シリアのラッカ近くで F16 戦闘機が墜落した後、ISIS 軍によって焼き殺されたヨルダンのアル・カセアスベ少尉は、ローマの円形劇場で考案されたどんなものより残酷だった。しかもそれは、そのように意図されたものだった。死は戦争の最大の見世物である。もし ISIS が、ジェット戦闘機、ミサイル、無人機、またアメリカの都市を爆撃する重火器をもっていたら、捕虜のパイロットを火炙りにする必要はなかったであろう。ISIS は、我々と同じように、数千フィート上空から人間を焼くことができるだろう。しかし ISIS は戦争能力が限られているために、我々が中東で人々に対してやっていることの、ミニチュア版を世界に放送しなければならなかった。ISIS のやり方はより粗野だが、結果は同じだ。

恐怖には振付が必要である。Shock and Awe (最初にショックを与えて威圧する戦術) を覚えておられるだろうか？ 恐怖は目に見えるようにして、効果を与えなければならない。恐怖は残酷な映像を要求する。恐怖は麻痺させる恐れを植え付けなければならない。恐怖は家

族の苦悶を要求する。それは切り刻んだ死体を要求する。それは無力な人質や捕虜からの、苦痛に満ちた訴えを要求する。恐怖は、戦争という捻じ曲がった対話で交わされるメッセージである。恐怖は、怒り、戦慄、恥辱、苦痛、嫌悪、憐憫、欲求不満と無力感の旋風をつくり出す。それは市民をも戦闘員をも消耗させる。それは暴力を、高貴な理想の名において正当化された、最高の美德として称揚する。それは死の謝肉祭をほしいままにさせ、社会を血にまみれた狂気へと突き落とす。

<http://www.encyclopedia.com/doc/1O214-shockandawe.html>

1990年代のボスニア戦争当時、近親者は、敵側の遺体取引人のもっている息子や夫の遺骸を取り戻すために、莫大な金額を払った。そして息子や夫が生きている場合には、彼らの解放を確保するために、もっと多くのカネを払った。人間は、我々の暗黒の場所においても、イスラム戦闘員の手の中にあっても、戦争の担保物件である。

すべての人質や捕虜が、同じ国民的な叫び声をあげさせるわけではない。すべての人間に同じ代価がつくのではない。すべての人間が解放の候補になるのではない。誘拐して身代金の交渉をすることを効果的なビジネスとして、何百人もの捕虜を取ったコロンビア革命軍（FARC）は、人質の段階をつくっていた。知名人の人質——コロンビア大統領選に立とうとしていて捕えられ、6年の拘束の後に、コロンビア軍によって解放された政治家の **Ingrid Betancourt** など——は基本的に法外な値段が付く。知名人の人質は、彼らが捕虜になっているときには、紛争の両側にとってより高い価値がある。こうした知名人の人質——1978年に誘拐され“赤い旅団”によって処刑された、当時イタリア首相の **Aldo Moro** はもう一つの例だ——は戦争のドラマを高める。檻に入ったサダム・フセインはこの目的に役立った。こうした人質は、解放に要求される金額があまりに大きいので、あらかじめ死刑に処せられることが多い。捕らわれ中に首を刎ねられた、アメリカ人ジャーナリスト **James Foley** の場合は、これだったのではないかと私は思う。要求された身代金があまりに法外なものだったので——1億ユーロとアメリカに捕えられているイスラム過激派の釈放——彼を捕えた者たちはおそらく、それが払われるとは期待しなかつただろう。

<http://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/southamerica/colombia/2237733/Colombia-n-rebels-tricked-into-freeing-hostage-Ingrid-Betancourt.html>

<http://www.findingdulcinea.com/news/on-this-day/March-April-08/On-this-Day--Aldo-Moro-Kidnapped-by-the-Italian-Red-Brigades.html>

ヨルダン政府は、小さくても凶暴な、急進的イスラム運動を封じ込めようと必死になっている。ヨルダンの民衆の間には、アメリカの民衆が **ISIS** 空爆について持っているのと同じ不安がある。しかし、ヨルダン人パイロットの死は、**ISIS** との戦いは、民主的で啓蒙された国家（ヨルダンが民主国家ではないが）と、野蛮なジハードイストの間の戦いだというワシ

ントンやアンマンの主張を、勢いづかせるものだ。そして水曜日の、ヨルダンによる 2 人のアルカーイダ・メンバーの絞首刑は、ヨルダン戦闘機によるシリアの事実上の ISIS 首都への爆撃とともに、こうした想定された違いを強調し、紛争を激化するように計算されたものである。

絞首刑になった 2 人の一人であるサジダ・アル・リシャウィは、2005 年以来、60 人を殺したアンマンのホテル攻撃に役割をもっていたとして、死刑を予定されていた。彼女は、2006 年にイラクで殺された、ヨルダン生まれのアルカーイダ・リーダー Abu Musab al-Zarqawi の仲間だった。ヨルダンと ISIS によるしっぺ返しの処刑は、空爆のように、“恐怖には恐怖を”というゲームでは有益である。それは、戦争の熱病のような高まりを維持するのに肝要な、善悪間の闘争という幻影をつくり出す。あなたは、あなたの敵が人間のようなことを望まない。あなたは、あなたの人民が血を見ることに飽きてしまうことを望まない。あなたは常に、脅しと恐怖をつくり出さなければならない。

フランスと、ほとんどの他のヨーロッパ諸国は、アメリカとは違って、誘拐犯と交渉し、カネを払って人質を取り戻す。これは固定的なビジネス慣行になってしまった。誘拐によって ISIS が手にする何千万ドルというカネは、歳入のかなりの部分を占め、予算執行のおそらく半分にのぼるであろう。ニューヨーク・タイムズはある調査記事で、2014 年 7 月にこう書いた——「アルカーイダやその直接の友好集団は、2008 年以来、誘拐による歳入が少なくとも 1 億 2,500 万ドルになっていて、そのうち 6,600 万ドルは昨年払われたばかりだ。」しかし交渉と身代金払いには結果が伴う。フランスと他のヨーロッパ市民は、身代金を払う傾向が強いが、彼らはまた、人質に取られる傾向がより大きい。だがフランスは、払うことを拒否するアメリカが耐えなければならない場面を、免除される。そしてこのために、フランスは比較的正常なままでいることができる。

恐怖は、両側の戦争屋の利益に奉仕する。これが 1979 年から 1981 年にかけての 444 日間イラン人質危機において起ったことである。そしてこれが、ヨルダンが——自国の 2 人を処刑させたが、ISIS への軍事行動に走らなかった日本とは違って——聖なる怒りに燃えて復讐を敢行した理由である。それがまた、フォーリー殺しが、ワシントンの戦争ロビーによる ISIS 爆撃キャンペーンの呼びかけを、強化した理由でもある。恐怖——我々が与える恐怖と受け取る恐怖——は、戦争への欲情を掻き立てるものだ。それは戦争十字軍の人集めの道具である。もし ISIS が残忍でなかったとしたら、残忍であるように見せかける必要があっただろう。困るのはこれが熱狂集団を捉えることである。そして宣伝の要求が十分に満たされるのは、我々の内部の熱狂者である。悲劇は、あまりにも多くの無辜の人々が苦しむことだ。

西側と同盟を結んでいる中東の諸政府、ヨルダン、イラク、サウディ・アラビアなどは、ISIS がシリアとイラクの一部をめぐり取って、テキサスほどの大きさの自称カリフ国を創るのを、恐怖に怯えて見ていた。ISIS は、石油輸出と人質ビジネスによって、なんとか財政的に自立するようになった。その支配下にある領域は、ジハーディストを引き付けるメッカとなった。それは、ヨーロッパからの 2,000 人を含めて、推定 1 万 2,000 人の外国人戦士を引き寄せた。

このならず者カリフ国が長く存在するほど、この地域の西側同盟国にとっては、生死にかかわる脅威となる。ISIS はサウディ・アラビアやヨルダンのような国を侵略することはないだろう。しかしそれが長く継続して存在するならば、そういった国家の不満分子や過激派、崩壊する経済の下で呻吟する多くの者たちに、内乱を起こさせる力を与えるだろう。アメリカと、この地域のその同盟国は、地図から ISIS を消し去ろうと決意している。それはあまりにも大きな不安定化要因だ。このようなドラマは、それらが ISIS の目標にも、ISIS を破壊しようとする国々の目標にもなるがゆえに、このカリフ国が存在する限り、終幕とはならないであろう。

恐怖は戦争を駆り立てる機械である。そして恐怖は、この紛争の両側が、これでもかというほど創り出している。

(クリス・ヘッジズは、かつて外国特派員として、中米、中東、アフリカ、およびバルカン諸国で、20 年近くを過ごした。50 か国以上の国から報道し、クリスチャン・サイエンス・モニター、ナショナル・パブリック・ラジオ、ダラス・モーニング・ニュース、ニューヨーク・タイムズなどの特派員を 15 年勤めた。)